

〔開会の宣告〕

遠藤洋路 教育長

令和2年8月定例教育委員会会議を開会いたします。

〔会議の成立〕

遠藤洋路 教育長

本日は、私の他5人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。

会議録署名人は、出川委員と私とします。

〔公開の審議〕

遠藤洋路 教育長

本日は、招集通知後に追加で協議をお願いしたい案件が発生したため案件を追加しております。

当該案件は、議第66号 令和3年度使用特別支援学校等教科用図書採択についてです。

また、本日の議事のうち、議第64号 熊本市一般会計補正予算（9月補正予算）については、「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」に該当することから、会議規則第13条の非公開事由に該当し、非公開の審議が適当と思っておりますがいかがでしょうか。

議第64号につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。

（全員挙手）

遠藤洋路 教育長

全員賛成により、議第64号については、非公開とします。

日程第1 前回会議録等承認

遠藤洋路 教育長

7月30日開催の令和2年7月定例教育委員会会議を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、ご異議はありませんか。

（異議なしの声）

異議なしと認め、前回会議録を承認することに決定します。

日程第2 事務局報告

（1）事業・行事等報告について

- 前回定例会議（R2. 7. 30）以降の事業・行事報告
- 今後の予定

日程第3 議事

- ・議第65号 熊本市社会教育委員の委嘱について

《松本 達典 生涯学習課主幹 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第66号 令和3年度使用特別支援学校等の教科用図書の採択について（追加）

《若杉敏郎 特別支援教育室長 提出理由説明》

遠藤洋路 教育長

この議第66号については、これまで採択をしている特別支援学校等の教科用図書に1件追加ということで、これまでと同様に、挙手による方法で採択をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なしの声）

遠藤洋路 教育長

ご異議なしと認めます。
議第66号について、挙手による決定といたします。
内容については、先ほど説明がありましたけれども、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

西山忠男 委員

追加の理由を教えてください。

若杉敏郎 特別支援教育室長

7月17日までに各学校から提出された採択希望一般図書を基に、熊本市採択希望一般図書一覧を作成する段階で1点の記載漏れがありました。それが各学校から提出する需要数報告を確認する段階で発覚いたしましたので、今回1点の記載漏れに対して追加の採択ということをお願いしている状況でございます。以上です。

西山忠男 委員

了解しました。

遠藤洋路 教育長

漏れということなので、今後はこのようなことがないようにお願いいたします。

では、ご発言が他になければ、採決を行います。

議第66号について、採択に賛成の方の挙手をお願いします。

(全員挙手)

遠藤洋路 教育長

全員賛成ですので、議第66号 令和3年度使用特別支援学校等の教科用図書の採択については原案のとおり決定いたします。

[採決] 【原案どおり承認された】

日程第4 報告

- ・報告（1）広報広聴関係について

《事前資料配布》

- ・報告（2）令和3年度市立高等学校使用教科用図書の採択について

《大江剛 指導課長 報告》

遠藤洋路 教育長

高校教科書は公費負担ではないということ、それから、種類も非常に多いということで、実質的な選定は各校長に委ねているということです。

西山忠男 委員

必由館の選定教科書の理科のところ、生物基礎が啓林館と数研と2種類ございますが、これは学科あるいはコースによって使い分けるといえるのでしょうか。

大江剛 指導課長

先ほど申しあげましたとおり、学科等、コース等が分かれていますので、それぞれの生徒の実態に応じて分けると。

遠藤洋路 教育長	学科、コースによって違うということですね、教科書が。
大江剛 指導課長	はい。
遠藤洋路 教育長	他にはいかがですか。 中学校のこの前の採択のときには、特に歴史とか公民とかに 関していろいろ政治的に偏ってるんじゃないかみたいな、両極 端の偏りがあるんじゃないかみたいなご意見もありましたが、 高校の教科書についてはそういう世の中の意見というのはある んですか。
大江剛 指導課長	実際そこは把握してないところでございますけれども、既に 検定済みの教科書の中から、学校の中の選定委員会を基に、校 長が報告したものをこちらでもチェックしまして、最終的には 教育長決裁いただくということで。
遠藤洋路 教育長	最終的にはもちろん各学校で選ぶんだから、それは構わない んですけど、世の中の意見にそういうものがあるのかというこ と、事実の確認なんですけど。
大江剛 指導課長	高校の場合ですね。
遠藤洋路 教育長	はい、高校の場合。
大江剛 指導課長	そこに関しましては、今回担当いたしましたけれども、そう いうお声は聞いておりません。
遠藤洋路 教育長	そうですか、特にそういう意見はないということですね。は い、分かりました。 他にいかがですか。よろしいですか。 では、他になれば、本件は以上にいたします。
・報告（3）令和2年度（2020年度）実施 熊本市立学校管理職等採用選考試験の申込 状況について	
《岩崎高児 教職員課長 報告》	

遠藤洋路 教育長
年齢要件を撤廃したけど、平均年齢はあまり変わっていない
というか、校長は少し上がってるぐらいですかね。それはその
年代が、数が多いからしょうがないのかもしれませんが。教
頭だけは若い人が1人申し込まれたということですね。

岩崎高児 教職員課長
1名だけです。年齢36歳の教諭です。

遠藤洋路 教育長
校長はどうなんですかね、どうやったら若い人にもっと受け
てもらえるようになるんでしょうかね。

岩崎高児 教職員課長
今のところ校長選考試験の要件として、教頭として3年以上
の要件がありますので、何年か経たないと校長選考には反映さ
れないと思います。

遠藤洋路 教育長
まずは教頭が若返らないと校長は若返らない、こういう仕組
みですかね。
他にはよろしいですか。
では、他にないようでしたら、本件は以上にいたします。

・報告（4）子どもたちの心のケアについて

《川上敬士 総合支援課長 報告》

遠藤洋路 教育長
では、本件についてご意見ご質問がありましたらお願いします。
す。

泉薫子 委員
このコロナ関連のカウンセリングが必要だという判定という
のは、コロナに対する不安と、それと生活の変化への不安など
ということですがけれども、具体的にはどんな項目があるかを教
えてください。

川上敬士 総合支援課長
各学校から項目出しをしていただいておりますが、一番多い
のが、学校生活での人間関係についてということで、学級の雰
囲気になじめるか、友達ができるかというようなのが一番多く
上がっています。次に多いのが、生活習慣のこと、朝起きるの

	<p>が辛い、寝る時間がとても遅くなった、睡眠時間が減ったなどに関することです。3番目に多いのが家庭生活のことで、保護者から叱られる、怒られる回数が増えたとか、親の仕事のことというものが多く上げられておりました。</p>
泉薫子 委員	<p>今の内容を聞きましても、前半の2つなどは個別のカウンセリングも大事ですけど、知識、ちゃんとした正しい知識を子どもたちに与えるということが不安を取る方法としては一番適切じゃないかなと思われる部分があります。なので、心理士によるカウンセリングも大事ですけども、担任の先生からのコロナに対する正しい知識だとか、今こんなふうに生活が変わっているのはこういう理由だとか、あまり必要以上に恐怖心をあおっている社会的な問題もあるので、そういったところを教育することで大分改善することがあるんじゃないかと思われますので、そういったことも一緒に進めていただくと減ってくるのかなと思いますので、よろしくお願いします。</p>
平生典子 人権教育指導室長	<p>1学期の再開時にも行ったんですが、子どもたちの不安を少しでも軽減して学校生活に前向きに取り組んでもらいたいということで、学習資料を作成しました。新型コロナウイルスに対する正しい理解をすることと、今の状況の中で、友達とどんなふうに付き合っていけばいいかということ、それから不安を感じることは悪いことじゃないけれども、不安が過剰になると恐れになって、それが差別や偏見につながる、それでは問題は解決しないので、そういう不安は相談することで解消しましょうというような内容を、スライドを作って学校に配布して、指導していただいております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今の点で、先ほどの総合支援課長の話だと、コロナ自体への不安、感染の不安とかそういうのはあまりないんですか。学校での人間関係とか生活習慣とか、家庭生活での悩みというふうな話でしたね。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>新型コロナウイルス感染症のことについてというのも59件は上がってきております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>上位の数じゃないけど、あったということですか。</p>

川上敬士 総合支援課長	<p>感染の恐れとかやはり不安についての悩みとかそういったものが59件ということになります。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>あと、私からもう1点、すみません。 最初一番多いといった学校生活での人間関係という、これはコロナに関係しているかどうかというのはどうやって判断しているんですか。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>これは地震のときもそうだったんですけども、そこに限定しての聞き方をしておりませんので、あくまでも学校が教育相談とか「心と体の振り返りシート」でちょっと状態があまり好ましくないという子どもに教育相談等も含めて聞いている内容です。例えば学校生活での人間関係のどこに新型コロナウイルスに対する不安、その影響が出ているかどうかということのははっきりとは見ることができていないということです。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>なるほど。そうすると、同じような状況でもコロナが原因だと判断したものもあるし、そうじゃないものもあると。それはそれぞれのケース・バイ・ケースでということ。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>そうですね。ただ、不安に感じているということは気持ち的にありますので、コロナ関連であろうと地震関連であろうと、不安や悩み等をきちんと拾い上げて心のケアに取り組んでいくということをどちらかというとき重きにしています。</p>
泉薫子 委員	<p>先ほどの続きですけども、2番目にありました生活リズムの乱れでしたかね、2番目が。それもやはり個別のカウンセリングではなく、生活リズムを改善するような教育というかたちのほうがうまく機能するのではないかなというふうに感じるところなので、そこも含めて教育という部分が今回大事なのかなと。追加です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。</p>
出川聖尚子 委員	<p>2点教えてください。1点が、この熊本地震と新型コロナウイルスのカウンセリングが必要とした児童生徒は重複しているんでしょうか。 また、新型コロナウイルス感染症のカウンセリングの小学生</p>

	<p>が多いとか中学生が多いとか、そういう何か特徴があるのかを教えてください。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>まず1点目ですけれども、重複しているかどうかというのはちょっと把握ができておりません。それぞれについて上げてもらってますので、重複している可能性もございます。</p> <p>2点目ですけれども、特徴的なのは、小学校よりも中学校のほうが多くはなってきております。特に中学1年生が一番多く、110人上がってきております。やはり入学式もない状態で学校生活が始まって、そして小学校から中学校と環境の大きな変化がやはりありますので、そのあたりが不安とか悩みにつながっているのかなというふうに分析はしております。</p>
出川聖尚子 委員	<p>別々に熊本地震と新型コロナと数が上がってきてますけれども、両方が一緒のお子さんはとても不安が高いのかなと思いましたが、何かそういうお子さんは丁寧に関わる必要があるのかなと思いました。カウンセリングでも両方の情報を持って関わる必要があるのかなと思います。</p> <p>中学1年生は環境の変化があるので、気をつけて丁寧にそれも関わっていかないといけないんだろうなと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>小学校と中学校、それぞれ何人なんですか。557の内訳は。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>学年別に集計したものですので、中学校が277ですね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>280人ですか。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>280人です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ですよね。だから、学年別に見ると、中学校のほうが1学年当たりの数は多いと、そういうことなんですね。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>はい。飛び抜けて中学1年が一番多く、一番少ないのが小学1年生が29名です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>先ほど出川委員からもありましたけれども、中学1年生というのはいわゆる中1ギャップというか、環境が変わって、コロナなんてなくても不安定になりやすい時期だと思うんですが。</p>

	<p>いつもの年に比べてもそういうカウンセリングが必要な中学1年生は全体として多いという印象なんですか、それとも全体としてはそんなに変わらないけれども、コロナが原因かなという人たちの中にいるという、そんな感じなんですか。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>毎年行っているわけではなく、今回初めて取りましたけれども、どちらかというと中学1年生は不安もありながら、中学校生活への楽しみというのもあったと思うんですが、それが2か月間登校できなかつたことで、逆に新たな不安が出てきているのではないかなと思います。友達とうまくできるのかというような不安につながっているのではないかなと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>例年との比較はよく分からないということですか。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>そうですね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。 他にはいかがですか。</p>
苦野一徳 委員	<p>3つ質問させていただきたいんですが。1つ目は簡単なお質問で。これは地震とコロナに一応特化したというかたちですけど、それ以外の心のケアにまつわるアンケート調査等々は継続的に行われているのかどうか、まずお願いいたします。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>学校のほうで「きずなアンケート」というのを毎月取っておりますけれども、「きずなアンケート」というのは、いじめを早期発見するための1つでもあるんですが、その項目の中に不安とか悩みという項目が必ず入っていますので、毎月1回は定期的に子どもの心理状況を聞くようなアンケートは全市の小中学校で実施しております。</p>
苦野一徳 委員	<p>ありがとうございます。 2つ目が、出てきた声を拾って、カウンセリングが必要だと判断された子どもたちは、全員カウンセリングを受けることになるのか、ある言い方をすると、受けることができるのか、別な言い方をすると強制的に受けさせられるのか、そのあたりも教えていただけますでしょうか。</p>

<p>川上敬士 総合支援課長</p>	<p>ここに上がってきた子どもたちは、学校がカウンセリングが必要と判断しておりますので、まず本人が受けたいか受けたくないかを確認します。本人が受けないと言ったときにはもうそこで終わりますけれども、本人が受けたいと言っても、保護者に一応それを伝えて、了解をもらってカウンセリングを実施するようにしています。これは地震関連、コロナ関連に限らず、通常のカウンセリングを行う場合にも同じような対応をしています。</p>
<p>苫野一徳 委員</p>	<p>ありがとうございます。 3つ目なんですけど、このやはり気になったのが、学校での人間関係に悩みが多いということがやはり一番気になりましたけれども、これはやはりカウンセリングだけで対応できるというわけでもないと思いますので、学校生活全般を通して何か改善していく必要があると思うんですが、そういった連携とかそういったことの体制と言いますか、も視野に入れてやってらっしゃるのかどうかをお聞かせいただけますか。</p>
<p>川上敬士 総合支援課長</p>	<p>先ほど人権教育指導室長のほうからもこの新型コロナウイルスに向けての、例えば学級開きのときにどういってお話をしたらいいかというのは伝えておりますけれども、苫野委員が言われたものはやはり、学級づくりであるとか、学級での友達関係づくりときちんと結び付けて、学校にもきちんとして指導をしてまいりたいと思います。</p>
<p>苫野一徳 委員</p>	<p>ありがとうございます。 557人ということなので、もし全員がカウンセリング受けるとなると、基本的にスクールカウンセラーが対応されるんですよね。十分対応できる人数なのかということ。あと、先ほど申し上げた、カウンセラーはやっぱりプライバシーの問題がありますので、人間関係でこういうこと悩んでると言われても、そのことが上手に学校のクラスの関係者の改善等々につなげていくのもなかなか難しいところもあるかもしれないので、その辺の体制の万全さというか、そのあたりがちょっと気になるなと思うんですけれども、いかがでしょうか。</p>
<p>川上敬士 総合支援課長</p>	<p>557人カウンセリングが必要と判断したわけですが、全ての子どもについてのカウンセリングは、先ほどもちょっと説明</p>

	<p>いたしましたが、4月、5月がカウンセリングを行っておりませんので、その時間を繰り越したかたちで対応していくということで、もしかすると3月ごろに時間が不足する可能性もなきにしもあらずですけれども。まずは余剰の時間を使って対応していきます。</p> <p>カウンセリングした内容につきましては、担任もしくは教頭、養護教諭に情報提供をするようなかたちを取っておりますので、カウンセラーのところで情報が止まって対応ができない、子どもが非常に学級で居場所がないとかそういうことをカウンセリングの中で漏らした場合にはそれを学校に伝えて対応してもらいようなことをこれまでやってきています。</p>
苦野一徳 委員	<p>ありがとうございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今の件に少し関係してなんですけど、これは学校ごとにすごい多い学校とそうでもない学校があるんですか、それとも各学校にある程度まんべんなくいるんですかね。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>まず、地震関係ではやはり桜木です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>地震関係は前から学校ごとに相当違いましたよね。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>はい。このコロナ関係で多い学校は、多いところは1校で55人です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>やっぱり多い学校があるんですね。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>はい。20人を超えているのが、中学校が4校、小学校が1校あります。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>逆に全然いない学校もあるわけですか。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>そうですね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>50人も1校でいたら、ちょっとカウンセリングをみんなに全員やるのは大変じゃないですか。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>同時期にバツとやるというのは非常に厳しいところはありま</p>

	す。
遠藤洋路 教育長	実際そういう学校では、カウンセラーが足りませんか時間 が足りませんということにはなっていない。
川上敬士 総合支援課長	という声は今のところまだ上がってはきておりません。
遠藤洋路 教育長	そうですか。分かりました。 他にはいかがでしょう。
小屋松徹彦 委員	では、もう一点。もう1回だけ数字にこだわりますけれども、 （1）のほうの令和2年度で、7月から極端に減りましたね。 でも、また新規で88人という数字が出てますけど、この減っ た数の内訳的に小学校と中学校ではどうだったのかというの と、また、新規で88人の内訳というのは、小学校・中学校で何 か特徴がありますか。（1）のほうの令和2年度。
遠藤洋路 教育長	地震のほうですね。
小屋松徹彦 委員	必要数が減ってますよね、425から249に減ってますね、 この減り方の内訳、小学生と中学生の。それと、それでも新規 で増えた88人、こちらの小学生と中学生の何か特徴的なこと があるのか。
川上敬士 総合支援課長	データの的には出しておりませんので、次回ご説明したいと思 います。 地震の場合には、学年でほとんど差がありません。ほとんど 同じような人数になっております。 新規につきましては、これも小学校のほうが新規で上がって きた数が若干多くいました。多い学校の上位では、中学校は1 校ですけど、小学校が2校、10人超えた新規数です。
小屋松徹彦 委員	分かりました。
遠藤洋路 教育長	じゃあ、しつこいようですけども、もう一回戻るようです けど。（2）のコロナウイルス感染症に関する、学校生活での人 間関係、これは例えばコロナが原因でのいじめということも入 っているんですか。

川上敬士 総合支援課長	学校生活における人間関係です。
遠藤洋路 教育長	一番多いのが学校生活における人間関係の悩みだということでしたよね。
川上敬士 総合支援課長	ここではいじめというのは上がってきておりません。
遠藤洋路 教育長	この中にいじめは入っていないということは、例えばどんなことがあるんですか。コロナに起因して学校で人間関係が不安だという。
川上敬士 総合支援課長	どちらかという、なじめるだろうか、今後どうなるかということへの不安のほうが強く出ている一方、学校生活を送ってこういうふう悩んでいるとか、困っているとかいうのではなくて、これから先のことで不安というのが新型コロナ関連としては多く上がっています。
遠藤洋路 教育長	分かりました。じゃあ、例えば新しい学年なり中学生になってしばらく休校で、オンラインでしか友達にも会ったことがなくて、学校始まったけど、ちゃんとこれからなじめるんだろうとか、また夏休み明けたらもう1回学校始まるけど大丈夫だろうかとか、そういう不安だなということですか。
川上敬士 総合支援課長	この後ご説明しますホットラインもやはり同じような悩みが多く、また学校再開前に登校したときにうまく学校になじめるかとかいうような、どちらかという不安定な要素が多いのかなという感じ。受験に対してとか、部活ができなくて今後大会になったらどういうふうになっていくのだろうかなど、先が見通せないことへの不安などが多いと思います。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 他にはよろしいですか。 では、他になれば、本件は以上といたします。

・報告（5）SNSを活用した児童生徒の心のケア事業の報告について

《川上敬士 総合支援課長 報告》

遠藤洋路 教育長

では、本件についてご意見、ご質問がありましたらお願いします。

泉薫子 委員

これは意見だけなんですけれども、今後恐らく家族の家庭の経済問題とか、そういった家族の変化とかが表面化してくると思われまので、相談内容で家庭環境に起因するのはということが、多分増えてくるんじゃないかと思うんです。それは非常に微妙なすごくデリケートな問題なので、子どもにとってはとても相談しにくい内容ということになるかと思っておりますので、そこらあたりをどんなふうに取り上げていくかということも、少し工夫しながらぜひ取り組んでいただきたいなと思っております。

遠藤洋路 教育長

他にはいかがですか。ありませんか。

私から1つ。「トークで相談」というんですか、大学生か心理カウンセラーが相談を受ける。「死にたい」とかそういう緊急の相談は、今回はなかったんですか。

川上敬士 総合支援課長

今回は「死にたい」という相談は1件も上がってきておりませんが、「みんなに相談」の中に「死にたいと思ったことはありますか」というような相談はありまして、それについて回答も上がってきております。

遠藤洋路 教育長

どんな感じの回答だったんですか、みんなの回答は。

川上敬士 総合支援課長

詳しくはちょっと存じておりませんが、担当から聞いた話では、自分もそういう気持ちになったことがあるということで、中学生がその質問をしたんですが、「死にたい」ということに対して小学生が、「そんなことを考えたら絶対駄目だよ」とかいうように、小学生なりに考えて書いてきていると聞いています。

遠藤洋路 教育長

分かりました。

他にはよろしいですか。

苦野一徳 委員

その点、少し気になるなと思ったんですけども、何かそこは専門家がアドバイスできるというか、そういった体制は整っていますでしょうか。そういった「死にたい」等々の声があった場合、どんどん同調的に変な相乗効果が起こってしまったりだとか、回答の仕方を間違えると余計に心が傷つくとかもあり得ると思うんですけども、そういった非常に深刻だったりデリケートな問題だった場合、何かアドバイスしてくれるような専門家がいると安心だなと思うんですが。

川上敬士 総合支援課長

「トークで相談」のほうは大学生も受けます。ただ、大学生が受けている間は、専門のカウンセラーが全部そのやり取りを見ているので、非常に専門的なアドバイスが要るときには、大学生から専門のカウンセラーに切り替わって、匿名ですので本人から情報を、特に「死にたい」とかいう発言になった場合には情報を拾い上げて、名前や学校名が分かれば学校のほうに対応してもらうかたちで、そういうやりとりで対応するようにしています。

それから「みんなに相談」の場合には、やはり一番心配したのが、例えばふざけた回答をすることや、ふざけた質問が上がってくるということを最初は想定しておりましたので、本課の指導主事が質問内容も全てチェックをします。そして、これは子どもたちに、116件のうち110件は公開していますが、6件は一切公開していません。これはどうしてかということ、小学校から中学・高校生では答えることが非常に難しいようなものは、全て公開しないようにして、逆に、指導主事がアドバイスをしてやるというような仕組みを取っておりますので、そこはしっかり注意をしながらやっておりますけれども、基本的には子どもたちの声を歪ませないような、ここにも子どもたちが「みんなに相談」について、「編集される場合があるから」とか、そういうのが出てきます。自分の声をそのまま受け止めてほしいというのが、ここに質問に来る子どもたちで、なるべく修正をしたりすることをせずに、載せられるものは載せているということです。

遠藤洋路 教育長

相談の方は、116件来たやつを全部、指導主事が見て公開したということでしたけれども、回答の方はどうなんですか。回答の方もチェックしているんですか。

川上敬士 総合支援課長	回答の方も全部チェックしてありますし、私たちにも見せたいので上げるようにしております。
遠藤洋路 教育長	じゃ、回答も、公開しないほうがいいなと思ったものは公開していない回答もあるわけですか。
川上敬士 総合支援課長	確かあると思いますけれども、ちょっとそこは詳しくは聞いておりません。
遠藤洋路 教育長	分かりました。じゃ、一応そういう配慮はしているということですね。苫野先生が言うように、例えば「死にたい」と言っていて、みんなで「死んでしまえ」みたいな回答がいっぱい来るとかいうことは、ないようになっているわけですね。
川上敬士 総合支援課長	それを一番心配しておりましたけれども、本当にこれを見ていただくといいですけれども、一生懸命質問に対してそれぞれの子どもが自分の考えで書いています。中には「先生が好きになりました」というものに対して、自分の、それは中学生が質問したことに対して高校生が返しているのですが、「私もそういう経験があって、先生に内緒でプレゼントをしたことがある」とか、自分の経験を基に一生懸命考えて答えるなど、これは本当にピアサポート的なもので、かなり心配はしたのですけれども、何かとても良かったなと思っています。
遠藤洋路 教育長	なるほど。じゃ、大人より子どものほうがよっぽど心が綺麗だと、そういうことですね。
川上敬士 総合支援課長	やっぱり同じ子ども同士で言われると説教に聞こえないんですね、子どもたちにとって。だから同じ年代、賛成・反対、両方あるんですけれども、「ああ、そういう考え方もあるんだ」とかいう、そういう意見の受け取り方が強いのかなと思います。
遠藤洋路 教育長	なるほど、分かりました。 他にはよろしいですか。 では、他にないようでしたら、本件は以上といたします。

・報告（6）令和元年度（2019年度）図書館事業統計について

《坂本三智雄 市立図書館長 報告》

遠藤洋路 教育長

では、本件についてご意見、ご質問がありましたらお願いします。

西山忠男 委員

すみません、3点あるんですけども、1つずつお願いします。1つずつご質問しますが、3つあります。

第1点は、1ページ目ですけども、更新率が年とともに下がっていますね。これは、予算の関係で購入できる本が減っているという意味でしょうか。

坂本三智雄 市立図書館長

左側の受入数をご覧くださいますと、平成26年度が86,997冊ございまして、だんだんこの数字が下がっております。受入数というのは、ほとんどが新たに購入した本の数でございまして、予算の減少とともに新しく買う本が減ったと。減った理由は、プラザ図書館の整備が計画に達してきたから予算が少しずつ減ってきて、新規の購入冊数が減ってきたという結果、分子の受入数が減ったと、更新率が下がったということになります。

西山忠男 委員

2点目ですけども、熊本市内には県立図書館もあります。それからプラザがあり、本館があります。そういうことを考えたときに、購入する本のジャンルとか分野とかいうのは、棲み分けを考えて購入しているのでしょうか。例えばプラザはこういう分野に特化して集めようとか、県立図書館とは違うものを集めようとか、そういう何か選択はあるのでしょうか。

坂本三智雄 市立図書館長

まず、本館とプラザ図書館の違いについて申し上げますと、2ページをご覧くださいますと、上の表の下の購入単価をご覧くださいますと通常分が1,288円、プラザ分が1,792円となっております。平成26年度当時はずっと差がありまして、1,251円と2,254円といった差がございました。

これは、プラザ図書館は先ほど申しましたように閲覧を目的に来られるお客さんが多いということで、調べ物に役立つような専門的な資料をたくさん揃えております。特にビジネス支援

	<p>ですとか健康関係の本を詳しく揃えているところがございます。その他通常分の本館は、一般の方が読みやすい本を揃えておりますので、そういった違いがございます。</p> <p>ちなみに、選書そのものは本館でプラザ分も含めて一括して行っておりまして、相手先を本館にするかプラザにするかといった具合で分けてやっております。</p> <p>県立図書館さんでございますけれども、あちらは調べ物をするを目的、重視しておられまして、本の単価も、プラザ図書館に近い二千数百円程度を平均として資料を揃えておられるというふうに伺っています。</p> <p>また、プラザ図書館と県立図書館で同じような資料を揃えても、非常に高価な資料の場合は重複してもったいないということなので、その辺の資料の配置分けといいますか、分担について今、協議を始めているところでございます。</p>
西山忠男 委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>最後、3点目ですけれども、市民のニーズをどのように吸い上げておられるのかを教えてください。</p>
坂本三智雄 市立図書館長	<p>どういう資料を配置したらいいかということかと思いますが、まず1つにリクエスト制度というのがございます。こういう本を読みたいといって直接書名をメールや窓口でおっしゃっていただくという方法がございます。それが1つ。</p> <p>それから、予約の冊数が、順番待ちが非常に多い本は、複本を買うようにいたしております。結構長くお待ちいただくものもありますが、長くても1年以内で順番が回ってくるように、そのように配慮はいたしております。</p> <p>また、蔵書回転度を先ほど申しましたが、これは資料ごとに資料の分野ごとに蔵書回転度というのが出ます。したがって、どういう本がよく出ているか、貸し出しがなされているかを見ながら蔵書構成を決めてまいっております。</p> <p>以上です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>よろしいですか。</p>
西山忠男 委員	<p>はい。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今のような各図書館の特色というんでしょうか、それは我々</p>

<p>坂本三智雄 市立図書館 長</p>	<p>は仕事をしているからある程度分かっていますけれども、一般の市民の方にはどのぐらい知られているんですかね。何かその辺はアピールしているんですか。</p> <p>アピールという点ではまだまだ不足していることがあるかもしれませんが、ご利用いただいているお客様は、県立図書館は調べ物で、気軽に読みたい本は市立図書館のほうでというような、そういう使い分けはやっていらっしゃるということはよく聞きます。</p> <p>また、プラザ図書館に行くと専門的な本がたくさんあるということは、ご利用者の間ではご認識いただいているというふうに思っております。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>今のだと、行けば分かるというような発想に近いことですか。普段使っている人は分かっていると、そんな感じですかね。</p> <p>私からもう1点あるんですけれども、4ページの貸出冊数の推移を見ますと、本館は熊本地震の後すぐに元どおりに回復をしているわけですが、プラザ図書館は落ち込んだままだという、これは違いは何だとお考えですか。</p>
<p>坂本三智雄 市立図書館 長</p>	<p>実はプラザ図書館の1階にスーパーなど一般のお店がございまして、そのお店と図書館とセットでご利用されているお客様が非常に多かったと聞いております。また、車でお越しの際は、スーパーで買うと駐車券の割引などもございました。ところが、スーパーが地震後、撤退した後、そういったお客さんが離れてしまったというのが大きな理由かと思えます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それで、今スーパーはなくなっていますけれども、今、熊本駅周辺は再開発をしていて、駅ビルができたり、いろいろこれからもっと人が増える方向にあると思うんですよね。だから、このせつかく人が増えるときに図書館の利用増にどうつなげるかという、そこの何か考えがあれば教えてください。</p>
<p>坂本三智雄 市立図書館 長</p>	<p>今まではビジネス支援を一番の看板でやっておりましたが、もう1つ、医療とか健康関係の情報をたくさん見ることができるとして、課題解決型の図書館として、ビジネス支援と健康と二枚看板でアピールしていきたいというふうに考えております。</p>

遠藤洋路 教育長	まずは駅ビルなり周りに買物に来る人たちなんかには、図書館の存在をまず知ってもらう必要があるでしょうね。ここに図書館があるので、駅に買物に来たついでに本でも借りていってくださいなみたいな、そういう宣伝というか、それも必要だと思いますし、さっきおっしゃっていたように、できれば駐車場の割引とか、図書館で本を借りたら5%引きになりますとか、もしあればですよ、何かそういう積極的に存在をアピールするような方法が取ればいいなと思うので、その辺もちょっと考えてみてください。
西山忠男 委員	関連してですけれども、市政だより等で図書館のPRなんかはされているのでしょうか。
坂本三智雄 市立図書館長	毎月、図書館のイベント等のPRはさせていただいております。
西山忠男 委員	そのときに、リクエストを受け付けていますとか、プラザ図書館はこういう傾向の本を集めていますとか、そういう情報も載せてあげると市民には分かりやすいと思うんですけどね。
遠藤洋路 教育長	じゃ、それもよろしくお願いします。 他にはよろしいですか。
泉薫子 委員	5ページの蔵書回転度を見ますと、東部公民館がひときわ高いわけですけれども、蔵書が3万で貸出数が17万、18万という、すごく効率のいい数になっているんですけども、ここは人口も多いし利用者も多いんだと思うんですけども、今後何か少し、蔵書数は少ないんですよ、割と。何かここを改善するとかという計画はありますか。
坂本三智雄 市立図書館長	東部公民館は東区の施設でございますが、実は熊本地震で施設も被害を受けてきたものでございます。また、老朽化も非常に進んでいるところでございまして、今、東区を中心に、東部公民館をどうするかということで検討を始めているということでございます。私たちとしては、利用者と規模のギャップを感じておりますので、そこはしっかり伝えていきたいというふうに思っております。

泉薫子 委員	ぜひお願いします。
遠藤洋路 教育長	他にはよろしいですか。 では、他にないようでしたら、本件は以上といたします。
〔非公開の審議〕	
日程第3 議事	
・議第64号 熊本市一般会計補正予算（9月補正予算）について	
	《福島慎一 教育政策課長 提出理由説明》
	〔採決〕 【原案どおり承認された】
〔閉会〕	
遠藤洋路 教育長	本日の日程は全て終了したので、令和2年8月の定例教育委員会会議を閉会いたします。